



# 市長からの手紙

## 68 基金

市が保有している財産には、土地や建物などの不動産、物品、債権などのほかに基金があります。基金は、特定の目的のためにお金を積み立てたり、運用したりするために設けるものです。家計に例えると、家の購入や将来の生活などの目的のほか、いざという時の備えのための預貯金がこれに該当すると言えます。

最近、国の経済財政諮問会議等において、近年この地方自治体の基金が増えていることをもって、地方財政に余裕があるかのような議論がなされています。

これに対して、地方財政の実態を踏まえていないものであるとして、全国市長会などから強い反発が出ています。

地方自治体では、それぞれの事情を踏まえて基金を積み立てていますが、川越市の基金はまだ不十分な水準にあると認識しています。川越市の平成28年度末の基金残高は約77億円です。

その主な内訳は、使途が限定されない財政調整基金が約50億円、庁舎建設基金が約15億円、職員退職手当基金が約4億円です。川越市と同じくらいの規模の中核市を見てみると、前橋市の年度末基金残高は平成22年度以降100億円以上(財政調整基金は70~100億円)の水準ですし、柏市は平成27年度には約247億円(財政調整基金104億円)となっています。

川越市の平成28年度末の財政調整基金は約50億円ですが、同29年度の当初予算では財政調整基金から約33億円の繰入金を計上しています。ここ数年、次年度予算の編成過程で歳入不足を補うために財政調整基金から30億円以上の繰り入れをしないと、予算が編成できない状態が続いています。また、経済不況等による大幅な税収減や災害の発生に対応するという意味でも、前記の前橋市や柏市に比べると財政調整基金は十分とは言えない水準です。

昨年は、積立基金の総合的な見直しを行い、今後予想される公共施設の大規模改修や更新の増加等に備えるための公共施設マネジメント基金を、市債の償還財源を確保するための減債基金をそれぞれ設けました。

将来に向け、安定的に市民サービスを行っていくためにも、川越市は、もう少し基金残高を増やしておく必要があると思います。

川越市長 川合善明

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」にご協  
かください

資源循環推進課 239-6267

239-5054

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルに、不要になった小型家電に含まれるリサイクル材が活用されることになりました。

東京2020組織委員会が主催するこの取り組みに、全国の自治体が、小型家電の回収で協力することになり、本市もプロジェクトへ参加することにしました。2020年以降も持続可能な、リサイクルの促進につながることも期待しています。市内では、左表の10か所に回収ボックスを設置しています。内容について詳しくは、市ホームページをご確認いただくか、お尋ねください。

回収ボックス設置場所 (施設開庁時のみ排出可)
市役所本庁舎
高階市民センター
名細市民センター
大東市民センター
霞ヶ関市民センター
つばさ館
東清掃センター
資源化センター
中央公民館
北公民館